

百人一首 上の句と下の句を線で繋ぎましょう ②

あしひきの
山鳥の尾の
しだり尾の

みかの原
わきて流る
泉州

嘆きつつ
ひとり寝る夜の
明くる間は

暮明けぬれば
暮るるものとは
知りながら

瀬をはやみ
岩にせかる
滝川の

淡路島
通ふ千鳥の
鳴く声に

いかに久しき
ものとかは知る

われても末に
逢はむとぞ思ふ

ながながし夜を
ひとりかも寝ん

幾夜寝覚めぬ
須磨の関守

いつ見きとてか
恋しかるらむ

なほうらめしき
朝ぼうけかな